

就任の挨拶

内田滋夫（放射線医学総合研究所）

この度、第3期原子力学会保健物理・環境科学部会の部会長に就任することになりました。小佐古前部会長のようにすばらしい部会運営が小生にできるか不安であります。部会員の皆様のご協力および飯田（名古屋大）、本間（原研）両副部会長のサポートにより任期を務めさせていただきたいと思っております。

皆様もご存じの通り、原子力学会は数年前から部会を中心に活動するようになりました。我々の部会も小佐古前部会長および福井元副部会長を中心に設立され、現在の会員数は二百名に迫ろうかという規模になっております。また、部会が設立されてから、大会での発表件数も増加し、参加者で会場が一杯になることもしばしばです。このような状況の中ではありますが、全く問題がないわけではありません。部会の数が多くなった現在、学会としても部会を統合する方向での検討が始まっています。また、特に我々の部会では若手が少なく、将来的にも多くの不安があります。

今期の目標として、若手の参加を中心に部会活動の活性化、に全力を注ぎたいと思います。先ほども書きましたが、大会において順調に発表件数や参加者数が伸び、活発になりつつあります。しかし、本部会では、学会の会期中に開催する総会への参加者がそれほど多くありません。また、部会企画などへの提案も少ない状況ですので、より活性化することが重要です。若手の参加に関しては、運営委員会を中心にいろいろな案を検討し、学会活動にどんどん若手を起用して行きたいと思っております。

部会活動の活性化は、まず部会員の皆様の積極的な部会参加が基本です。残念ながら研究所等では学会参加に意義を見いだしていないところもあります。しかし、保健物理および環境科学分野の発展は部会の活性なくしてはありえません。研究所や事業所にとって、職員が学会に参加し十分な成果を上げることが、長い目で見れば研究所や事業所にとっても結局プラスになる、ということを理解してもらいたいと思います。

そこで、部会員の皆様には積極的に部会運営に参加していただき、一人一人がリーダーであるという意識を持って部会を支えてもらえるような魅力的な部会になるよう最大限の努力をしてゆきたいと考えております。部会員の皆様のご支援・ご協力をお願いする次第であります。